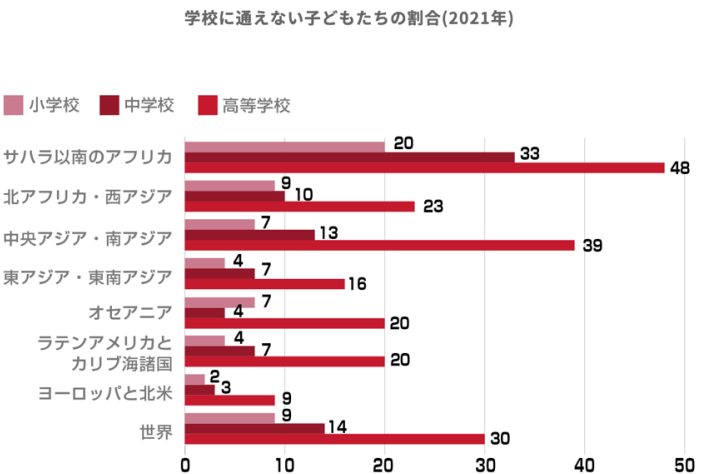


世界中の子ども達に、笑顔あふれる質の高い教育を

井上 希美

わたしは、世界のすべての子ども達が、学校に通えているのかについて調べてみました。なぜなら、インドへ旅した時に、学校へ通うことができずに昼間から家族のために働いている子どもに出会ったからです。日本では、小学校・中学校は、義務教育があり、子ども達は学校に通えています。紛争や自然災害、貧困などにより学校に通えない子どもが、世界には約6700万人いるそうです。わたしは、世界中の子ども達が学校に通い、質の高い教育を受けるチャンスを与えられることが大切だと思います。なぜなら、子ども達には未来があり、かなえたい夢や将来の目標のために学ぶ必要があるからです。



上のグラフは、2021年の調査で学校へ通えない子どもの割合を示しています。一番上は小学校、真ん中は中学校、一番下は高等学校に通えない子どもたちの割合を表しています。これを見ると世界中のいろいろな場所で、子ども達が学校に通えていないことが分かります。私たちが生活しているヨーロッパと、サハラ以南のアフリカの小学校に通えない子どもの割合とを比べてみましょう。ヨーロッパは、全体のたった2%であるのに対して、サハラ以南の子ども達は20%が、小学校に通えていないということが分かります。つまり、サハラ以南のアフリカでは、五人に一人の子ども達が、小学校へ通えていない現実です。小学校、中学校、高等学校と棒グラフの割合を比べると、年齢が高くなるほど、学校に通えない子どもの割合は増加していることが分かります。世界全体で見ると14%、つまり七人に一人が中学校に通えず、高等学校では30%つまり三人に一人が学校に通えません。子ども達が学校へ通えないということは、学習のチャンスが与えられずに、文字を書いたり読んだりすることができず、自由な将来を思い描けないと思います。このような子ども達がいる現実には、世界の人々が目を向けて、自分たちができることを考えていくことが大切だと思います。

このように、グラフをもとにして、世界には学校に通えない子ども達がたくさんいることを述べました。当たり前のように学校へ通うことができているわたし達も、学校に通えない子ども達に目を向けることで、今学校で学んでいることに感謝がわいてきます。世界中の子ども達が学校に通うことができ、自由に希望にあふれた夢や将来を思いえがけたら、地球上にはもっと子ども達の笑顔があふれるでしょう。わたしは、ユニセフなどの国際機関に募金や寄付をしたり、さまざまな教育支援のプログラムをもっと調べたりして、自分のできる支援をしていきたいです。